

リベロ

N-ro 24 1974年12月

発行所 リベロ社

京都市左京区田中門前町

28-5 TEL(075) 721-4507

振替京都 44453

編集発行人 はぐまをおゆき

定価 50円 郵送料 20円

年間購読料1000円 半年500円

LIBERO. ANARKISMA JURNARO



リベロ 第24号

〈集会報告〉

相沢尙夫講演会／無政府共産党／

30年代におけるアナキズム革命の試行 2

映画「靖国」上映会報告・・・8

連盟準備会 関東地区 第一回会議・・・8

私の記録 狭い細い道 大島英三郎・・・4

機関紙／パンフ紹介・・・6

〈新刊紹介〉

反体制エスベラント運動史／婦人運

動の実践題目／中国アナキズムの影 8

〈CIRA・NIPPON〉だより・・・11

告知板——10 集会案内——12

集会報告 11・9 相沢尙夫講演会 (大阪)

日本無政府共産党 一九三〇年代

におけるアナキズム革命の試行 (講演記録)

さる一月九日夜六時より大阪中之島公会堂内第一会議室において『日本無政府共産党』の著者相沢尙夫氏を迎えて、講演会が開かれた。まず実行委の報告・問題提起があり、つづいて講演に入った。相沢氏は「無政府共産党を日本のアナキズム運動史の中で見る時、そこに突然変異的に出てきたものではなく、やはり一つの流れの必然としての結果であった」として、その歴史的・理論的・背景の解明を中心として語った。総体的にいつて講演内容は、一九三〇年代のアナキズム運動からする、今日の運動への問題提起という性格を帯びている。三〇年代の課題の本質的な部分は、今日私たちによって解決を迫られている課題でもある、ということである。

講演会は若干の質疑応答の後、九時に終了。以下にその一部をかかける。(文責 巖本)

相沢です。今夜のテーマは八日本無政府共産党についてですが、運動史等でも、無政府共産党というのがあった、というだけの内容についてはほとんど語られていない。あるいはあれはアナキズムから逸脱しているとい

はじめに

う批判が多かった。批判は自由ですし、私も無政府共産党が古典的アナキズムそのものであったとは考えていません。しかしファシズムがさかんになり出した時代に、彼らはとにかく情熱

を傾けて革命をやろうとした。その意志だけは確かであった。彼らが何を考え、何をやったかということがあまり知られていない。それを明らかにしたいというのが、私が『日本無政府共産党』を出版した理由であり、本夕のべるのも、それに関するであります。

一九三〇年代の状況

三〇年代のアナキズム運動は、二三年の大杉らの虐殺あたりから考えないと十分理解できないと思います。翌二四年その報復として和田久太郎が軍司令官を狙撃する。この二四年は、ソ連ではレーニンが死にスターリンとトロツキーとの闘争がはじまる。翌二五年、日本では治安維持法がつくられ、これはアナキストというより日共への弾圧が目的です。さらに昭和に入ると支配階級は中国侵略を推進し、共産党はすでにスターリン主義の時代に入っている。「労働者の祖国はソ連である」

「共産党のみが革命をなし得る」という神話

盟Vが結成される。労働組合としては、全国自連が作られる。しかしすぐサンジカリズムをめぐって、いわゆる純正アナキズムとナルコ・サンジカリズムの対立が激化してくる。純生アナの代表的理論家・八田舟三は、マルクスの階級闘争説・労働価値説の批判をしたのですが、この正当なマルクス批判とサンジカリズムを一緒くたにしてしまった。

クロボトキンの限界

では八田は、どのように社会革命をやるかというところ、一揆暴動を起こそうというのですね。権力を倒してしまえば人々は無政府共産の社会を作り出すんだという思想です。成程抽象的にはその通りでしょう。クロボトキンもまた『パンの略取』等の中で「権力を倒せばすべての人はかわるんだ」という考えをのべている。このクロボトキンの『パン略』は、一九三〇年代のアナキストにとっては、最も注目されたものです。革命に際して人民が行うのは八収用Vという活動であり、これが徹底的であればある程人民自身の革命になるとクロボトキンはいつている。これもその通りだが、では収用した生産手段なり土地なりをいかに管理し運営していくのか。彼はきわめて図式的に、人民の自主管理を行いさえすればいいと主張している。しかし実際には、ロシア革命をみてもわかるように、そうではなかった。これでは到底共産党の強い力に対抗できない。民衆が革命をおこしても、ロシア革命の二の舞になるのではないかと考えたのです。

「アナキズムは敗北の思想か？」
さらに当時、「アナキズムは敗北の思想だ」というアナキストがいた。私はこれに憤慨したのだが、いう所は「支配階級を倒す」ということは、それを圧制することだ。アナキズムには「圧制の思想はないはずだ」とはどうするのかという結論づけて、「アナキズムは敗北の思想だ。それでいいんだ」。

私はその理屈はわかるのですが、「革命は抑圧ではないのか。抑圧なしでやろうとするのは啓蒙主義だ。これでは百年河清を待つというものだ」と考えた。△過渡期▽（資本主義社会と無政府共産社会の間によこたわる過程を、こう呼んだのですが。）の問題はクロボトキンからは引出せない。だが引出せない限り啓蒙主義に陥るか、テロリズムに走るしかない。また、アナキストは個人の自由とか無政府共産の理想社会については非常に多く語っているが、では現在どうするのか。どういう方針で闘えばそこに到達し得るのか、という戦略戦術を論じたものは皆無であった。八田さんのような、「すぐ一揆暴動を起こせ」というのはあったが、コトバでは簡単だがそんなこと出来っこありません。アナキズムの理想達成のための方法・手段をめぐって色々研究が為されてはいたが、見るべき成果がなかった。これではいくらアナキズムが正しいといっても、沈滞していくのは当然じゃないかと思つた。

『国家と革命』へのアブローチ
私たちはこのような考え方から無政府共産

党の問題に入つていった。

そこで、どういふ問題を検討しなければならぬか。その時私が一番興味を持ったのがレーニンの『国家と革命』です。古典的アナキズムからは非難されるだろうが、私はここから理論化をはじめた訳です。これを読みつ、しかし一面ではスターリン主義のソ連の現状にはどうしても賛成できなかった。どこかに欠陥がある。『国家と革命』の大部分は首肯できるけれども、ある一点に來ると、どうしてこれが現状のようなスターリン主義国家になつてしまつたのかという問題にぶつかると。レーニンは少くとも一〇月革命以前は、パリ・コミューンを模範としてロシア革命を考へていた。パリ・コミューンは国家とはいえない、死滅しつゝある国家であるから△半国家▽だといつてゐる。彼らもこれを本當の国家とは考へなかつた。ところが、一〇月革命の結果出来あがつたのは本當の国家だ。世界一統制された国家だ。スターリン主義的に極度に権力が集中し、極度に管理が行われる社会となると、人間が主体性を失つてしまふのは當然です。ロボットです。これくらい統制のきくものはない。そこには人間がない。これはどうしてはじまつたか。

——全人民の武装・未解決の課題
△過渡期▽では、我々は権力を持たないといつてみても、反対する者は抑圧しなければならぬ。これさえ否定すると、さつきいつた通りアナキズムは敗北の思想になつてしま

う。この矛盾をどう解決するか。私はそれをもうアナキズムにさがしたのではなく、『国家と革命』にさがしたのである。すると、レーニンはちゃんと書いてゐる、反革命を抑圧するには何も国家はいらない、全人民の武装が反革命をやつてしまふと。もっとも私は当時、レーニンが国家はいらないと書きながら国家を作つてしまつた原因は、彼の権力意識以外にないんじゃないかと考へた。これは現在では未熟だつたと思つてゐます。

全人民が武装しなければならぬ、といふとアナキストからは「お前は権力者だ。権力を持つとうとしてゐる」と非難されるだろう。だが全体が権力を持つといふことは、全体が権力がないといふことだ、と考へたのです。そして無政府共産党は、全人民の武装による人民主権の確立を主張したのである。しかし具体的にどうかといふと、それは分らない。人民自身の自主管理といつても人民の直接民主主義が、権力者を生むこともあり得るので、人民は必ずしもアナキストではないのですから。これは今でもわからない。その他の問題とともに、これはみなさんの力で解決していただきたいと思います。

(ここに収録したのは一時間半にわたる相沢氏の講演のごく一部であることをお断わりしておく。なお、さらに詳しい講演記録が12月初旬発行のハイオム▽7号に収録される予定なので、興味をお持ちの方はそれをお読みいただきたい。)

私
の
記
録

狭
い
細
い
道

大
島
英
三
郎

○月○日
エンリコビルに横倉さんが、G・グラシアさん、その夫人と娘さんを宿泊に案内してきました。男やもめの私には何のもてなしもできませんでしたが、その革命家的な謙虚さ、おくさんの温良、娘さんの無邪気な愛らしさ、他に負担をかけまいとする心づかいに、一夜の無料木賃宿主の私は敬服するばかりでした。いまアナの陣営には、大正ギロチン社の欠点だけ継承したような人がごく少しですがいます。私は自立自営、少しでも余力をたくわえ同志の活動をたがいに助ける心がけがアナキズムだと思っています。

支配と搾取の強権主義者の門は大きく、その道は広く、それに入る者は多人数です。あらゆる政党政派はそれです。支配と搾取を根絶しようとするアナキズムの門は小さくその道は狭くイバラが妨げてます。これに入る人は少数者です。アナキストの旗は黒旗です。死の旗です。しかし、その死は一粒の麦地に落ちて死なすばの死を表すのです。幸徳、大杉、久さん、大さん、ふみ

さんらは皆死にました。が彼らは、その死によって新しい戦士を生み出しているのです。私たちに革命戦を鼓舞しているのです。

○月○日
金子ふみさんの墓参に行きました。かつては一家一族の恥とされた、ふみさんは、今は光栄とされてるかと思われました。朝鮮のとは別に生家の墓地に墓標が立てられたのです。ああ革命は近づけりです。

一行は、ふみさんの盟友だった栗原さん、韓さん、古川時雄さんの代理に夫人の百合子さん、それに卒論に、ふみさんを書きたいという女子大学生のS子嬢と私、一行は東京新宿駅から乗車したのでした。金子家のかんげいに恐縮した私たちは毎年この日をふみ子忌としようと決議しました。

私はふみさんの獄中手記「何が私をこうさせたか」を複製出版させてもらい、おかげで多くの友人を得て幸いです。ふみさんの肉體は死んでも魂は死せず、何万人の精神の中に

生きているのです。

○月○日
私は毎月第二と第四の日曜午後一時から、エンリコビル三・四階でアナキズム共学讀書会を開催しております。この日に望月百合子さんを、招請してルクリユやアン・リネル等についてお話をうかがいました。ところが、遠方から別の目的できた学生(男性)がルクリユがどうしたリネルが何だと、いい出し共学のふんい気をこわしました。

次日私は、おわびに百合子さん宅に参りましたら百合子さんは「それはルクリユやリネルの偉大を知らないからでしょう」といわれ私の不始末をとがめられませんでした。そのとき私は百合子さんと石川三四郎さんの五年にわたって発行されたアナキズム研究紙「ディナミック」を複製することに、お許しをいただきました。「ディナミック」は貴重な文献です。それが学生の無知の言葉と百合子さんの寛容の愛によって、世に出ることになったのです。

この合本はまれに古書店に出ますが、六千円くらいです。私はその半額で十一月早々出版します。百合子さんや壇谷、大沢さんの序文解説を付します。

○月○日
讀書会に、女性史の研究者河野信子さんと中田ムメノさんといわれる現代の中山みき、出口なおさんのような教祖的的女性のお話をうか

がいました。

河野さんは高群逸枝のしごとを継ぎ、さらに新しい世界をきりひらこうとしている方です。中田さんは中山、出口さんと違い独特の哲学者で、またふしぎな力のある方で私は中田さんから性や、ウンコの話がうかがって少しもいやな感じはなく、かえって清潔感をうけるのです。

「両女史にはときおりぜひ読書会にきてもらい、俗悪に汚染しようとする私どもの心を清めていただきたいと思います。」

なお両女史にきてもらえたのは前橋市のアナキズム共同体、解放精舎のご尽力によりです。

○月○日

過密の東京の中で広大の住宅があり、その前で老女性アナキストと小学三年くらいの女兒が話し合うのを私は聞きました。

「おばさん、このバカでかい家に何人住んでるの？」

「そうね、夫婦と子ども三人とその雇人たちでしょう。」

「まあ！五人のためにこんな大きい家なんて、この夫婦は共かせぎ何千人分の働きの者なの。」

「この夫婦は子どもを作り出すことしかやらないの、皇太子という役人で、自分の役人が税金というなままで人民から取り立てたお金で遊び食いしてるのよ。」

「まあ！そんな太いダニ皆で押しかけて

行って追い出し、高い家賃や、狭い借間で困っている人たちが、共同住宅にしたいわいでしょう。」

「追い出しはいけません。追い出しに行く大勢の中のリーダーが、この家の新しい、主人となるからです。みんなが本当の自由、幸福を得るのは、この家の主人が、ダニでくらすことに心苦しくなり、大きい家からは出し、私は、これからは人民の皆さんと共に労働しますから、今までの悪事をお許しくださいと、特権を投げすてる、真の革命の成就が必要なんです。それには献身的な多数の革命家の活動の積み重ねが必要ならならぬのです。」

「まあ！ 本当の革命ってたいへんなお仕事なんですよ。」

「そうよ。本当の革命の考え方、やり方はアナキズムというりっぱな思想があつて、わたしはそれによって六十年も活動してきて、今もしているの。」

「まあ！ おばさんは偉い人なのね。わたしも早く大きくなって、そのアナキズムの革命家になりたいわ。」

(S・七四・十・二四)

△お知らせ▽

「リベロ」取扱先を追加します。

名古屋 グロッタ (喫茶店)

京都 梁山泊

△反公害講座▽開講

(反公害講座事務局／大阪市北区 神山町13松栄ビル3階)

今年六月二日、八くらしを奪いかえせ・世直し集会を企画、実行した「世直し運動事務局」が、十一月二十六日の、「いま、びわ湖で何が起きているのか？」を皮切りに「反公害市民講座」を開く。

同事務局のよびかけには、次のような開講の目的がかかげられている。

1. 闘争を担っている人々の「闘いのことば」で「反公害」という抽象的課題をより鮮明なものにし、
2. 現にいま別の場所で闘っている人々、更に、闘いへの共感を持っている人々に、共通の課題として提起する。
3. そして、何よりも「闘いの場」として「知恵と力を獲得する場」として設定する。

第一回シリーズは「びわ湖・淀川の水を考える」で十一月二十六日、十二月十二日、一月下旬、二月上旬の四回が設定されている。講師には岡本厳(滋賀大教授)辻田啓志(びわ湖・淀川汚染に反対する府民連絡会代表)鈴木紀雄(滋賀大助教授)などが予定されている。

(事務局電話 312 6025)

機関紙・パンフ紹介

リベルテール 10月号

目次は(1)「ゼロ成長」下における社会主義とは/山野文二 (2) A字型の集箱/杉藤二郎 (3) ちょっと考えたこと/鈴木光一 (4) 連盟について/田野元 (5) 交流会印象記/はしもとよしはる (6) 国家覚え書・その3/三浦精一

一が主なものである。今号は内容が多面化したという印象が強い。(4)の中で田野氏は、「八月に京都で、全国連合へ向けての合宿が行われた。傾向として連合形成を思想運動としてよりは、政治斗争のための、あるいは革命斗争のための手段とみなすのが強かったらしい」(中略)しかしながら、「思想運動とは何より人間関係の質を問題とすることであり、とりもなおさず連合の問題である。」として、人間関係にスポットをあてて、結論的に「それ故、連盟は、単なる政治斗争や『革命』斗争の手段であるというような、今までの左翼の組織編と同レベルで語られるべきでなく、アナキズム運動そのものを展開するための重要な一つの思想運動として推進されていく必要がある。」と、広い意味での思想運動として全国連盟はあるべきだと主張している。

(6)で三浦氏は若者小屋、文化大革命、アリアハチの本能的社会、人類の出現、デュルケムの「神は社会だ」との言葉、アルジェリア独立の父ベン・ベラ、根津嘉一郎財閥、アナ

キスト組織の除名規定、アフリカの部族の長老たちによる法廷、などと巾広く論及している。三浦氏は除名規定について次のようにしている。「スパイは忠実に規定を守り、行動においては勇敢でさえあるだろう。そうしなければスパイでできないのだ。フランスのサンジカリストの仲間が立派な同志として死に皆が墓まで建てた男がスパイ行為をしたことが後で、官憲の書類で分った例もある。同志が敵に見える時は、もうその運動は末路である。除名騒ぎや内ゲバにつけてむのは政府だ。それにそって一網打尽にできるのだ。信頼と愛情によってささえられるのがわれわれの運動であるはずだ。規約や法によってではないのだ。除名規定などでスパイを保護して同志を追放するような愚をしてはならない。またその規定によって官僚主義化してはならないのだ。法規から一歩も出まいとするのが官僚ではないか。」除名を受ける対象は(1)スパイ、(2)逸脱者、(3)小敵対者がある。それらを除名するのは官僚的処分だと、論を進めている。

たしかに、私も、ナンセンスなスパイ嫌疑や、消耗な除名騒ぎの例を知っている。そして氏のいう信頼と愛情によってささえられる運動というのも一面の真実だと思ふ。氏の除名不要論に対しては今まで批判のほうを多く聞いている。が、実際に行われてきた除名の質の悪さとか、建前と規約が先行して、官僚化しやすい組織に対する警告として、氏の主張に学ぶべき点が多くある。今までも除名

に関しての討論がされてきたが、過去と現在における除名の実体とか除名が必要な事象などでの具体例に欠ける抽象論が多かったし、又その抽象論の土俵も各人で異なっていて、違いを私は感じた。そのすれ違いをこえて、実のある討論をするには、しかしかの目的をもつ組織の某氏をいかに除名するか、又はいかに除名なしてやってゆくか、という討論をしなければならぬと感じた。(Z)

発行所・東京都練馬区大泉学園町2190番地 萩原晋太郎方 リベルテールの会

長野共同新聞 第20号

(昭和49年10月15日発行)

◎天皇と天皇制アンケートの回答・その6
 回答者 藤沼泰・信濃次郎・笠原邦樹

「天皇を殺せ」から「天皇も人間として扱え」など千差万別の意見があり、興味深い。

◎ただの主婦が見た日韓・日朝関係(三原令) 一人の主婦(浦和市・五二才)の密航韓国青年救済運動の経験。「八日韓協議録」の多岐

に渡る解釈と、難解な法文の一字一句が、日韓の実務者には、金額の換算表であって、絶対当事者の密室で、税金のように納金すれば『日本法解釈の不思議』選挙違反の棒引き無罪のように処理されることを、身を持って知りました……とある。

長野共同新聞社 長野市高田中村沖三の三
 守田荘

年間購読料五〇〇円

振替長野15841番

非暴力直接行動・準備号 3

WRIの名のもとでの非暴力直接行動の原理に基くユニークな反戦行動が広がりつつある。

本号目次は(1)WRI本部通信より (2)チニアンの核基地と日本 (3)ポリネシアの核実験 (4)12月1日・反戦平和のために捕われている各国在獄中者のための日 (5)市川より

「WRI市川は28日の日本化学へのデモの集会で、結成集会をやり、29日には所沢のりこみアビールして拍手を浴びるなど、戦争抵抗者インターという名が注目されています。旗はまだ字ができてないまま持歩いています。地元市川では、市内戦争関係地図を、自転車という機動力を活用して作りたいと思っています。(古沢)」などのように地方ごとの特殊性を生かした反戦運動が広がっている。今後のさらなる展開が期待される。徴兵制もなく、一見民主的なボーズをとり、間接的にアジアの大国の戦争に大加担するこの日本に於て「日本のWRI」と呼ばれるだけの強力な抵抗運動が特にアジアの仲間から望まれている。非暴力という言葉に少しひっかかりを感じるが、今日の日本の情況と、戦争抵抗者の社会的境遇を考えれば、非暴力の方法論としての有効性を感じざるを得ない。

なお、地方の支部がさらに増えたので次に例挙する。
WRI姫路/姫路市白鷺町51 原子東梧方
WRI京都/宇治市小倉町南堀池56の28 友村

方・会沢康一 WRI旭町/大阪市あべの区
旭町2の12の2 泉原文化・水田凡太郎 WRI
I川崎/川崎市中原区上丸子山王町1の14
31・安斉しげき WRI東京/世田谷区代
田6の27の3 田中方アバートP1・上村滋
WRI市川/市川市中山3の8の3 古沢宣慶
発行所・姫路市亀山354 戦争抵抗者イ
ンター日本部(B5 4頁)

思想の科学 10月号
高群逸枝について……

「高群逸枝と長谷川テル」という論文の中で、加納実紀代さんは、第二次大戦中、高群が『日本婦人』に寄稿し戦争協力をしたと高群を批判している。ユニークな高群批判である。皇国伝統の婦道を説く『日本婦人』に高群は毎号就切連載随筆をのせていた。そのようなことが出来る高群の出発哲学は「真性」である。「真性とは、自己に付与され、随時付与される行動の主観——衝動」であり、この「自己の内部からの衝動のみを一元として出発し行動する」と彼女自身がいつている。高群の思想の変遷、アナキズムから国家主義へ、またレーニン主義の共産主義への変化は高群の傲慢な「真性」のせいだと加納さんは批判している。自己の「真性」が大きすぎて他者の「真性」が見えない狭さが高群にあった、というのが加納さんの論旨である。

日本無政府主義者連盟規約草案及び
綱領草案について 石川玄造

大別して筆者は二つの点から草案を批判している。

マルクス諸党派の本質的な体質としての、
綱領主義的の点と、
世界把握及び戦略が欠落している点。

この二点が草案の致命的欠点だとしている。筆者は、この文章を書く立場として、草案起稿者の本心は知るすべがないので、「わたし自身の趣向もこの際出来得るかぎり捨象して論理的に記述していくことにしよう。」と前置きして、全体的に草案に対してアンチの立場をしている。

「とにかくざっとあげても、階級斗争に対する見解、過渡期社会の把握、軍事的見解あるいはビュロクラシズムに対する見解、性革命、したがって女性解放に関する見解、第三世界ないし被抑圧民族の位置づけと、その闘争の把握、地球現状における生態学的考察、都市論……
等々にたいして正面から取りあげられた記述は皆無である。

したが、当然にも、組織論も運動論も粗雑に語られるしなくなっている。」
上記のように、準備会の綱領方式に筆者は否定的であり、むしろ当面のスローガンか行動綱領の指定を望んでいる。

(B5 4頁 ガリ孔版)
本文書のコピーはリベロ社(京都市左京区田中門前町28の5)にあります。

一 報告集

映画「靖国」
上映会報告

一〇月二二日、大阪市教員会館に於て「映画「靖国」上映と討論の夕べ」が、だらしね舎・東大阪へ平連・反戦市民運動懇談会の三者共催で開かれ、四〇名をこえる参加者があつた。

定刻を三〇分過ぎた六時半より約一時間「靖国」が上映され、五分の休憩の後、主催者から集会設定の経過が報告され、ひき続き映画制作者のN・S氏が制作の動機を語つた。そして映画に対する各人の感想を糸口に話合に入つていった。

映画は8ミリ・白黒・ナレーション付きのもので、八南京大虐殺の記録写真や陸上自衛隊御殿場演習場の様子などが時々間に入りながら主に靖国神社の状況・その場に参拝している人々・鳩などを丹念に写している。その丹念さがわざわざいしてか、もしナレーションがなければ、靖国神社の宣伝映画といつてもおかしくない映画だ、という感想も出た。話合いはおおむね、制作者が出席していた為か、映画の評価・解釈をめぐって進められた。しかし、映画を離れて、靖国神社に祭られている人たちは、一般に国家のため、家族のために死んだといわれているが、本当にそうだったか、彼らはムダ死ではなかったのか。という基本的な疑問や、誰と戦って死に、祭られているのかを検討しておく必要があるのでは

はないか、等の意見が提示された。

各人それぞれ感想や意見提示にのみ終始したまま討論にまで入らない内に会場の使用時間切れとなり、午後九時散会した。

なお当日会場において八天皇なんかタブーじゃない(詩のべ平連発行)が七部販売された。

△連盟準備会

関東地区第一回会議

関東地区連盟準備会の第一回会議が、一月一七日(日曜日)、調布・電通大において行われた。会議は、自己紹介・経過報告・議題の順に進められた。議題は主として、労働運動をどのように評価するかが話し合われた。議事の要点は、1労働組合運動を問題とする根拠について 2労働運動と学生運動 3権力について 4どのような労働組合を作るか 5ゲバルト共闘 6マルクス主義を学ぶのか。およそ以上について話し合われた。この会議では思想上の相違点を出していくことを一つの目安としたため実際の、主要なことは決定されなかった。また労働運動を話の中心にすえたため、学生と議題との間に若干の遊離がみられた。以上であるが、当会義を設定された電通大アナ研に敬意を表したい。

(Y・M)

新刊紹介

△反体制エスベラント運動史

宮本正夫著

「……ロシアの激しい迫害のなかに生きユダヤ人ザメンホフは、民族相争う矛盾に触発されて……すべての民族に共通な第二の言語……国際語を採用することによって、民族間の差別をなくし、民主的な国際的言語生活をきずくべきだとしてエスベラント運動を創めた。言語は個人の力によって発展するものであると同時に、それは社会的現象であり、社会発展の流れにしたがって発展していく。したがって社会のさまざまな矛盾を解決しようとする人びとの努力は国際的言語生活における矛盾を解決しようとするエスベラントと深いつながりを持たないわけにはいかない。反体制の立場に立つエスベラントが政治的な反体制の運動にみし、反体制の人びとがエスベラントを支持することとなるわけである。このようにして社会運動・エスベラント運動の歴史のうえで……さまざまな役割を果した人たちの数は少くない。この本はそれらの人たちの足跡を社会運動・エスベラント運動の歴史のうえにたどり、かれらの果たした役割を明らかにし……ことを目的としたものである」

(本書まえがきより)

△お知らせ
リベロ社において、
12/21 CIRRA・NIPPONの編集会
議。翌22日pm2:36時編集会議。乞参加

本書は、関西エスベラント連盟の育て親であり、今なお運動の中心者であって、その六〇年の生涯をエスベラントと共に生きてきた著者以外には書きえない貴重な資料が、ふんだんに駆使されている。その意味では、エスベラントだけでなく、社会運動史に関心をもち、絶対に見逃しえない価値をもつ。それにもまして、殆どエスベラントについて未知な人々は、おそらく五百を優にこえて言及される人名が、他の分野で耳馴れた名前であることにまず驚き、さらにエスベラントが単に言語としての問題だけでなく、文化革命そのものとしての質をもつものであることに気付くだろう。

第二章「大杉栄をめぐる人びと」は、私たちがとっても新しい智識である。(R・M)

(三省堂 定価一〇〇〇円)

▲婦人運動の実践題目 高群逸枝著

青娥房から出ている高群逸枝シリーズの第三番目の出版。手頃な大きさと買いやすく読みやすく、内容もまた面白くわかりやすいと好評で、各冊とも、京都市内の書店では飛ぶように(！)売れている。

目次を掲げてみよう。

- (1) いかに恋愛すべきか
- (2) 世の醜男醜女に与う
- (3) 恋愛と強権
- (4) 小ブル藤森成吉に与う。

(5) お出でなされた

(6) 婦人運動の実践題目

このうち、(2)がユニークである。決して醜男醜女ではない皆さんもぜひ一読してほしい。今日の美の観点は、強権社会の産物である著者はいいきる。「見よ。巨大な体格、光る眼、傲慢な鼻、これらの諸条件は、まさしく高所から人民を見くだし、抑えつけるにふさわしい」そして著者は結論的に「日本人である読者を喜ばしてくれ。私は、かかるタイプの男性、すなわち今日最も尊重される男性美に対して、何となく反感を持つ。かようなタイプは最早や古い時代の美であって、私どもの想像する美は、むしろ親愛な日本の男性諸君に近いもののような気がする。」すなわちアラン・ドロンより瀝美清の方が愛される可能性が、きたる社会にはあるのではないか、というのだ。

(6)では婦人運動家のタイプを四つに分けて説明している。一つは「政権」を獲得するために一路邁進する政治主義の立場をとる者。二つは書いたり論じたりするより、まず何らかの党へ入り「実行」欲を充たす者すなわち実行家。三つは分裂する政党や組合に合同せよと叫ぶ、ダラ幹どもを倫理化しようとする倫理家。四つは労働組合運動、消費組合運動、農民組合運動を行い、帰する所は自治コミュニティをめざす経済主義である。著者はこれが無産者が求める社会をもたらず立場だとしている。(B6・320円・取扱先 東京都板橋区赤塚2の35の9白樺ハウス10号 青娥房)

▲中国—アナキズムの影

玉川信明 著

一九七一年に訪中した著者の恣意的な「私の中国」とあるけれど、包摂的な論文である。中国のアナキズム運動といえは、わずかしかられていないし、実際わずかな運動しか展開されなかったというわけか、第三章(中国近代アナキズム)は二頁しかない。しかしこの本は中国アナキズム総論といっていいほど包摂的である。まず中国の農業社会、宗教共同体的村落がアナキズムが生きている基盤であるとする。第二章(伝統思想の中で)では道教、特に老子の思想が、アナキズム的であるとし、また他の諸子百家にも大同思想としてアナキズム的な流れが多いと紹介している。第四章(日中アナキスト交流)は一言でいえば山鹿を中心とする日中の交流である。第五章以下、毛沢東思想の中のアナキズムの影を種々挙げていく。都市と農村の距離をなくそうとする努力。人民公社の自発性。精神労働と肉体労働の合一。下からの運動(例えば文化大革命一九六五)。等々をアナキズム的思想の表われとしている。

エドガー・スノーの『中国の赤い星』の中で毛沢東は、「私は無政府論についてのいくつかのパンフレットを読んで、それから大きな影響を受けました。しじゅう私の家を訪れた朱謙之という名前の学生と、私はしばしば無政府主義や中国におけるその実現性について議論をしました。当時私は無政府主義の提

唱する多くの議論に賛成して「いました」といっている。

全体的にアナキズム的な面を、今の毛思想の中に見つけていくというのは、なんとなく毛沢東ないし毛思想に甘すぎるという感じがある。第六章において著者は、毛思想をアナルコ・ボルシェヴィズムとし、次のようにいっている。「中華人民公社については先にみた通りであるし、八権力奪取後は、国務院に報告して同意を得なければならぬ」と、すべてが八人為V(計画)づくめである、その意味ではプロ文革は、仏様の掌中を飛び交り悟空のごとき存在であった」

さて、中国の権力集団について、私は専門的に研究した訳ではないが、どうも虫が好かぬというか、好感が持てない。毛沢東は、ボルで骨を作っておいて、アナキズムの花を飾りに付けたのではないだろうか。その所を感ぜぬことが必要だろう。中国の路線に対するアナキズムからの厳しい批判が必要だと思ふ。大は毛沢東の個人崇拜必要論から、小は封建的性道徳にいたるまで、私たちは批判すべきであろう。近頃は自民党までが中国におべっかを使っているの、私は気を悪くしている。

最後に、私は、隣国中国について歴史的にも、現在のにも随分無知だったと、本書を読みつつ反省させられた。中国を論ずる前に、まず中国の人民と、中国の風土を知らなければ、と感した。

(三一)新書・定価四二〇円

(Z)

告知板

▲彌栄郷Vと
▲こむらどVの主張を聞く会
反戦市民運動懇談会

「反戦」を軸に天王寺公園で反戦露店市などをやっている反戦市民運動懇談会は、一月八日午後一時より、大阪市立労働会館で八彌栄の郷とこむらどの主張を聞く会Vを開く。「彌栄郷共同体」は二年ほど前から島根県の山奥で農業を行っており、「こむらどアフリカ委員会」は一九七二年七月から機関紙「こむらど」の発行をはじめ、アフリカ解放闘争の動向や、宗教・風俗などを掲載しつつ、アフリカを理解し、連帯するための活動を続けている。

彌栄郷共同体とこむらどアフリカ委員会は共に一〇月一三日に開かれた「天王寺公園反戦露店市」に参加し、同じ場所に店を出したという以上の継がりはない。そして、この二つの団体が何を考え、何を行っているか、何をやろうとしているかを、二つ並べて聞く積極的理由は別がない。しかしながら、大阪からは島根もアフリカも遠く、また商都大阪と農業共同体、ブラック・アフリカも遠いと思ふこまればちな昨今、距離感を失わせしめるような集會が持たれることはそれなりに意味あることであろう。

・地下鉄森之宮駅西へ徒歩三分)
東大阪市客坊町12-16 和田方
反戦市民運動懇談会

▲交流塾Vに集まろう!
奈良のA交流の家Vを舞台にして、月一回のペースで塾が開かれることになった。ハガキに刷られたよびかけ文に、開塾(?)の意図が次のように記されている。
「ひとつの新しいルツボが生まれようとしています。人々が集まり、出会い、新たな生き方と社会をさぐりあうルツボ。この混乱の時代こそ、こうした模索と相互訓練と交流の場を必要としているようです。」

スケジュール
第1回 11月23日午後6時半-9時半
▲日本人の源流をさぐるV 野本三吉
第2回 1月25日
▲ハリ・仏教・革命V 西辻誠二
第3回 2月22日
▲資本と権力の壁にどう立向うかV 崎間昌一郎

場所はいずれも「交流の家」
奈良市中町39 交流の家の内
交流塾実行委員会

大阪のなかに、島根、ブラック・アフリカがある。
12月8日(日) 午後1-5時
大阪市立労働会館307号室(国鉄環状線)

◎必ず事前に参加申込等連絡すること。

CIRA NIPPON
研究センター通信

一月例会から
一月は第二土日及び第三土日の二回にわたって集まりがもたれました。今回は取りたてて新しい合意事項がありませんでした。
一〇月に話された内容に沿って、より具体的な方向性の問題をめぐって話され、継続して話し合いを持つということになりました。今年一年の反省と来年以後について、センターの持続基盤を如何にして形成するのか。現状のセンターをいかにして克服するのか。センター、活動、生活を含めて、センターを支える有志のそれぞれの方向性について話されました。我々の共通の認識では、現状でのセンター及び周辺部の活動は、凹凸はあっても、一応の成果を上げ、一応の幅を持ちえてはいるが、(もちろんやや荷がかちすぎているとは思いますが) 公開を基本とするセンター自体の問題は、なお残されたままであり、飽和状態に近い現状を突破する新たな展開と方向性をここ三、四年をメドに、今までの蓄積の上に立って考えなければならぬ地点に来ていると思われる。更なる一歩への転回点である。こうした認識の上にならって、今後継続的に話し合いが持たれよう。

処理できた。製作にあたったU・O・T・Yの諸氏に紙上をかりてお礼致します。
又、今回は外国の同志が参加し、情報の交換をした。アナキズム誌・リベロ紙等について、発表されると思う。
会報の発行が遅れているが、発足以来の活動の経過報告をかねる為に、手間どっている。今回は、一四頁に及ぶ内容資料が提出され、逐一検討された。もうしばらくお待ち願いたい
一二月例会では、一月より継続された問題、書籍の整理及び今年度の締めくくり等を予定している。
(N)
なお、次号よりセンター在庫目録を掲載の予定。

容目録コピー	4000円
◎萩原晋太郎氏より 墓標なき革命家——大正の反逆児高尾平兵衛	7000円
◎山口秀彦氏より 展望・情況・構造・思想の科学他多数	17930円
◎秋山清氏より アナキスト詩集・戦後詩の私的な回想・近代の漂泊・反逆の心情	7000円
◎山部嘉彦氏より 日本無政府主義者連盟規約草案及び綱領草案によせて	17930円
◎向井孝氏より サルトトン172・べらぼうな通信6・非暴力直接行動3・段ボール箱二箱分(資料)・書類・戦後史関係出版誌紙内	15640円

海外の同志より

- LA PROTESTA NO. 8.153 (メキシコ)
- BLACK FLAG NO. 13 (イギリス)
- UMANITA NOVA N28-N29 (イタリア)
- EL COMUNISMO LIBERTARIO (フランス)
- MARX yel ANARQUISMO (スペイン)

センターの収支

収入・会費 (二口)	4000円
カンパ	17930円
売本	7000円
支出・郵送料金	15390円
英文リベロ印刷費他	14000円
図書カード	4900円
目録コピー代	3000円
書棚作成材料費	22610円
書籍購入費	15640円

(以上 一〇・一四〇・一一・一八)

集案内

◎ほびっと裁判公判

12月10日(火)午前10時から
広島地裁にて 久光氏の証言がある。
・連絡先/岩国市今津町2丁目 ほびっと

◎無政府主義共学読書会

毎月第2・4日曜日 午後1時〜4時
大田区西蒲田7の61の8 エンリコ・ビル
TEL(03)735 1246

◎リベルテール・サロン

毎週火曜日6時より(祭日・スト日は休み)
場所 水道橋・喫茶コージ
・連絡先/中野区中央4の31の19 和田荘
西塔昌弘

編集雑記

◎CIRA・NIPPONと海外との交流を促進するために、国際通信部が神戸に設けられたことは先月号に紹介されている。この国際通信部の機関誌(CIRA・NIPPONの準機関誌)として来年一月に「リベロ・インターナショナル」が創刊される。編集は日本在住の強力な海外同志二名を含む「リベロ・インターナショナル編集集団」によりなされる。協力者を求む! 連絡はリベロ編集部まで。(草)
◎39度のネットで、「リベロ」の財布と共に(?) 大風邪でなんと五日間もコンコンとね

こんでしまいました。11・9の相沢さんの講演中も、相沢さんの顔がポーとして、大仏さんのイメージと重なってしか記憶がないというなさを。皆さんも体気を付けて。(Z)
◎11月21日京都。アナキスト部隊の結集する場へ向かう車中から見ると、四辻ごとに制服の警官が立って警戒している。この日京都市内には何と八千の警官が動員されたというフォード防衛に名をかりた左翼総体への攻撃訓練だ。ということとは近く人民の大爆発があるというのをテキは賢明にも予知しているのだな。(T)

◎アナキストでもないほくが「ANARKI S M A J U R N A L O」とやらの編集スタッフに加わったりしてええのんかしら? と思いつつ、名を連ねています。まあボチボチいきまひよか。(ST)

◎リベロの編集なんつーても、アンマシ、ネエ。ともかくにも集案などの案内、報告をドシドシお寄せ下さい。

◎かつてゲイテはその死に際して「もっと光を」と叫んだ。私たちは新生リベロの再出発に際して叫びたい、もっとニュースを!(T)

▲リベロの

定期購読者になってください!
本紙も寄稿者が次第に増え、内容の充実も日程のほってききました。後は赤字状態をどう切抜けるかです。定期購読を!

新刊書

▲アナキスト詩集 秋山清編 海燕書房
定価一八〇〇円 三一八頁 萩原恭次郎・岡本潤・小野十三郎・植村詩・伊藤和・猪狩満直・秋山清・押切順三・高島洋・向井孝の詩

▲墓標なき革命家——大正の叛逆児・高尾平兵衛 萩原晋太郎著 新泉社 定価一三〇〇円 二九六頁

▲やられたらやりかえせ 釜共闘/山谷現闘委編集委員会 定価一一五〇円 三〇四頁

▲リベロ取扱抜

(東京) 新宿・模索舎/神田ウニタ/恵比寿・苦惱社/駒場東大前・駒場書店/下北沢・幻遊舎/池袋・高野書店/高円寺・かんたんむ/吉祥寺ウニタ/早稲田・寅書房/国分寺・アバン書房/文鳥堂四谷支店/越境の会 (神奈川) 横浜ルビコン/川崎ルビコン (静岡) CIRA NIPPON・静岡県富士宮市杉田251 (名古屋) 名古屋ウニタ (京都) ほんやら洞/ふたば書房/京都書院 (大阪) 大阪ウニタ/サルートン/だらしね舎 (神戸) イカロス書房/イオムの会 (岡山) 梁山泊 (岩国) ほびっと